演習の進め方

平成30年12月7日

荒川下流域を対象としたタイムライン(事前防災行動計画)専門部会

1. 演習の目的

タイムライン関係機関同士で改めて防災行動を読合せし、 防災行動の実施方針のイメージを明確化すること

- **●タイムライン(拡大試行版)の適用時の**
 - ・仕組み、流れ
 - ・伝達、共有する情報(気象・水文情報)
 - ・これらの情報の読み解き方

を理解する

- ●タイムライン(拡大試行版)の模擬適用を体験する
- ●タイムラインを見直し、内容の充実を図る

2. 演習の方法

「読合せ方式」で実施

演習事務局: 擬似的な時系列の気象・水文状況情報を付与タイムライン関係機関(プレイヤー): 付与された情報に対してタイムラインの防災行動が「適切か」、「見直しの必要が無いか」を確認

3. 演習の流れ

(1)演習事務局が

- ■レベル(及び目安の時刻)を状況付与
- ■当該レベル(及び目安の時刻)で伝達・ 共有する気象・水文情報を状況付与 (その読み解き方を説明)



(2)対応行動の検討

・読合せ、行動の検討

(演習事務局から進行管理上のコメントやプレイヤーによる模擬広報なども実施)



演習事務局からプレイヤーへの質問(必要な箇所で)



次のレベル(及び目安の時刻) の状況付与

	レベ	目安の	作	概ねの進行時間	合計(分)				
	N	時刻など	業番号	14:30 ~ 15:35		(1) 分	(2) 分		
	-	状況説明	1	14:15~14:19	4	4	0		
		状況検討	2	14:19~14:23	4	4	0		
	ı	情報共有 ツール説明	3	14:23~14:33	10	10	0		
	ı	状況共有	4	14:33~14:34	1	1	0		
)	1-2	-18 H (気)	⑤	14:34~14:41	7	4	3		
		-14 H (気)	6	14:41~14:47	6	3	3		
	2	-11 H (気)	7	14:47~14:54	7	2	5		
)		-8H (-6H)	8	14:54 ~ 14:58	4	1.5	2.5		
		-4 H	9	14:58 ~ 15:01	3	1	2		
	3	-3H	10	15:01 ~ 15:05	4	1	3		
		-1H	11)	15:05 ~ 15:08	3	1	2		
	4	0~YH	12	15:08~15:13	5	1	4		
	5	XH (X1~3は割愛)	13	15:13 ~ 15:18	5	2	3		
	1	適用終了	14)	15:18 ~ 15:20	2	2	0		

※表中の(気)は該当の「目安の時刻」内の気象情報も同時に状況付与することを示す。

4. 演習上のみなさんの役割

■演習事務局

構 成:荒川下流河川事務所

東京管区気象台

CeMI環境防災総合政策研究機構

役 割:タイムラインの時系列の気象・水文情報の状況付与

演習進行管理

⇒タイムライン適用中に伝達・共有される気象・水文情報についての説明

⇒演習進行管理、プレイヤーへの質疑や行動の促し等のコメント

■プレイヤー

構 成:タイムライン関係機関

役 割:自機関のタイムライン上の防災行動を確認(読合せ、検討)

⇒付与される気象・水文状況に応じて…

A実施が適当と判断できた 防災行動の場合 情報共有 該当する防災行動の欄に「実施し ツールに た」ものとしてチェックを入れる

B実施すべき防災行動が『タイムラインに無い』または『対応 行動の内容を修正したい』場合

|| 該当する防災行動の欄にフセンで || 追加・修正内容を記入する

C実運用で行う避難勧告等や 災害広報の防災行動の場合

会場に

マイクで模擬伝達・広報を実施する

4. 演習上のみなさんの役割

A 実施が適当と判断できた防災行動の場合

情報共有ツール (2018/10/9運用開始)

・該当する防災行動の欄に「実施した」ものとしてチェックを入れる



4. 演習上のみなさんの役割

B 実施すべき防災行動が『タイムラインに無い』または 『対応行動の内容を修正したい』場合

演習記録様式

フセン

間(いつ)	300	zazali:		95			10	れが(情報の発	0.12.7別練>						
元章 日本の 住 時刊 経 十五章 日	大統件様マル「田」を	現実制行動で 4 二朝 7 日 4	医分子 円利 再業・上共主化物(組んできた効果の製造の 開発・日本のではない。 日本の日本のはない。 日本の日本のはない。 日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	「八田」 画集ではません数で進んできた。 に対して知る第 画章で「小田ではいからます。 に対していません。 をできたからかられた。 をできたからからからない。 をできたからかられた。 をできたからかられた。	### U ** ******************************	拡大航行版する対す	N N N	HER		II W	製品屋	(SOS	O RES	MAN AND SECOND S	フセン(黄)
-16H	201		第15年 大田田県の大田・東田・田丁 GRUHE 東田水瓜子男の伝達	************	#11.44年からから第1日の日本の第1日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	a= 0		0	0	o	0	0	0		タイムライ
	282 283 288	218	東川丁茂TL選用	西川下流TLの時期と対応状 双の共有	度は下流で、上のにベル(及び計変の時刻 を設定 関係者へ伝達 計整への広襲(30) tubbel	202 203 (5 204		Ó	ō.	0	o	0	0	D.	
	250	242	長種機能の収集·確認	資料情報等の収集・接款 住法等への推制任体	かた京京の政策(教)組みたこと、集選ったこと) 旧財権観客の収集・連盟 管務点加集者の原理	290 290		0	0	0	0	ř	0	•	ンに <u>防災</u> 征
	292		各種情報の情報		音楽に強い行かのお息が接近しているため細胞を検討するよう呼び かけいけ、metro、facebook、エリアナール、メールマガジン等) 地下後等、連転書者刊用主致、大規模工場等への資本を駆ける程 注重情報(集会)[集の任道	202 0		0	0	0	0	0	0	0	動の追加る
	294	240	A87個の企業	請求予報(はん製作業情報/ 無資)の伝達	英水手舞(はん変注意情報/展帯)の位連	254 O	ii.	0	0	0	0	0	o		記入
	289	243 243 216	体制の機能-機能	日審司志人員の課題・千配 体制の機関・機能	参加大大の連接 地震を対した。 地震を対した。 地震を終める。 地震を表現した。 大型を対した。 大型を 大型を 大型を 大型を 大型を 大型を 大型を 大型を	205 208 207 208 208									此人
	303	sic	ANA STATE OF THE S	おっトラインバニよる連接	大選体制の機関・集化・経行 同日事務所の作品へポルテランパによる選絡(は人間は選種報(無 を)の伝達、今後の見込み) に協定数とへの連絡・否定との数据!	80 O		0	0	o	0				
	309	274		広域を対失の数数 を取情能の発表・伝達	正場を見たへの連絡(有区との観整) 設計事業 実施を申請提供的の自由・仕事 (指名、出土場、設定しずれたのは人を仕事情報に基づら) 設計事業 実施を申請提供を会合の提供	300								0	
	304	234	ents		真正確断を検討するよう呼びかけいP、メールマガジン、ferebook。 lw/tor等	304 309 (O									フセン(赤)
	307	204 224			他11以11地域上避難計2衛里所開設 致自避難建計學股功學會 自立避難計0運業	307		1	1	1		F			プピン(が)
	310		避難行期長支援者への対応 区所管理技術への対応	経 区所管室技術への対応 以管付室用資機材、機同用	商三総関(集か)の検討を呼びかけ 変えへの準備を開催	310		-		-	-	-			
	aev.		次第対応に係る事項の事前確認-導備	災害可能用資機材、使用用 資機料の建築	文書対策両責領材、復旧用責領权の確認	301			9						タイムラー
	312 213 314	264	開報・直接管所の卓殊・対応	バトロールの実施 直接技術の直接 直接技術への対象	(1917年の東京(東京) 単位(1) 神位(1) 日初末後、アンダーバスなど有効関係の連位 上名文書を開発所付近の区記に対する音を観覧呼びがけ	312 313 314									
	215	.267	四川関連接数の正確・直接 四川管理施数のゲート操作に伴う練歴・任道	ゲートの関係操作に持う配地 機能	3月1月月百年(ホームレス会社)への事前関処工意味起等 日用ホ門上下連絡の幕水散状労締結	215									ンの防災
	315 315	265	公共交通事業者間の課題	ゲートの開算操作に伴う情報 伝達 の共交通機関の進行禁墜の	お海木門上下流的の高水敷状房伝達 連門性見の確認 海行衛度 帯上子の帯の確認	313 313	6	0	0	0	0	0	0	0	動の修正」
	120	235		実施と運行状況の拠粒・共有	水位の屋根等の気象を行に上る各社の屋の状況の機能収集	322			_	1		1			
	à	271			重星繁衍 埼玉、蔡星-北省繁衍 東京 心角素	241									を記入
		272	各種情報の位置・確認	気象情報の発表、従業・確認	最高製物(株主)、最高・定点製物(東京)の収集・意味度の特征	22 0	S.				0				

4. 演習上のみなさんの役割

B 実施すべき防災行動が『タイムラインに無い』または 『対応行動の内容を修正したい』場合

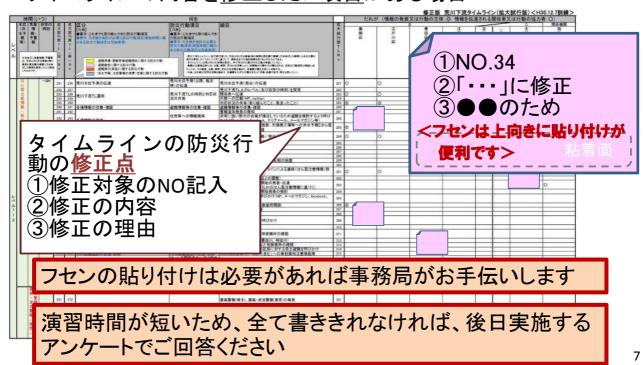
タイムラインに記載がないため追加したい項目がある場合



4. 演習上のみなさんの役割

B 実施すべき防災行動が『タイムラインに無い』または 『対応行動の内容を修正したい』場合

タイムラインの内容を修正したい項目がある場合



4. 演習上のみなさんの役割

C 実運用で行う避難勧告等や災害広報の防災行動の場合

ホームページ、テレビ、メール、防災無線などにより 地域や関係者全体に向けて伝達している情報

⇒マイクで会場全体へ伝達・広報を模擬的に実施してください



- ・マイクが必要な際は挙手をお願いします
- ・演習事務局がマイクをお渡しします

5. 演習で用いるタイムライン

■演習で用いるタイムラインは資料6-1です

演習は、平成29年度(平成30年2月26日)に行ったタイムライン専門 部会ブロック検討会の結果として下記を反映したタイムラインであ る資料6-1を用いて行います

- ①項目の集約
 - ⇒繰り返し防災行動の都度記載を整理
 - •「台風情報および気象情報の発表、収集・確認」、「今後の見通しに関する情報収集」
- ②行動の精査
 - ⇒防災行動や◎○の過不足を整理
 - ⇒制度上の実態を踏まえ、荒川水位予測は河川事務所から 市区へのみ情報伝達を行うこととしました

(拡大試行版TLNO.281、327、403)

※行動の精査について、タイムライン専門部会ブロック検討会で頂いた意見は資料6-2です ※項目の集約や行動の精査は本年度も引き続き実施します

8

6. 演習で対象とするハザードの想定

荒川下流タイムラインの想定するハザード設定と 同様なものを想定します

■資料5 :訓練(机上演習)シナリオ

※荒川下流タイムラインの想定するハザードの内、

風速は一部修正(暴風警報発表中の風速を1.3~1.5倍)

■参考資料1:荒川下流タイムライン(拡大試行版)

(本演習では、上記で設定したハザード想定以外に被害箇所や被害者 数等の状況付与はありません。)

7. 演習の補足

- 演習時間が短いことから、ホットライン全般は実施しないこととします
- 本日板橋区さんは欠席ですが、全ての防災行動項目に対応していること とします